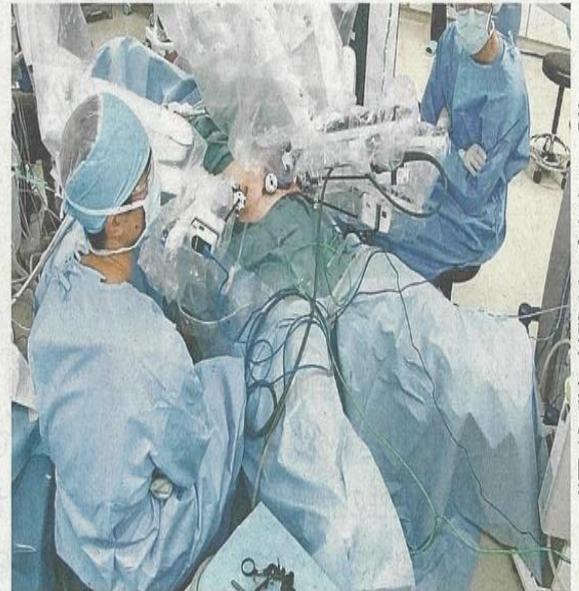


# 膵臓手術に支援ロボ



ダヴィンチを使った膵頭十二指腸切除術

## 県立中央病院 北信越で初

県立中央病院（白田和生院長）は手術支援ロボット「ダヴィンチ」による高難度の膵臓手術「膵頭十二指腸切除術」を始めた。より高精度で安全な手術が実施できるようになり、術後の合併症減少が期待される。同切除術でのダヴィンチ導入は北信越では初めてという。（藤田愛夏）

膵臓は、胃や十二指腸、腎臓などの臓器や体の中枢を走る血管に囲まれているため、切除手術は高い技術が求められる。特に膵頭部周辺の病変を切除する膵頭十二指腸切除術は、周囲にある十二指腸や胆管、胆のうなどを切除し、残った臓器を腸などにつなぎ直す再建術をしなければならぬ。

加えて、術後に合併症が起る割合が高く、縫い合わせ部分から膵液が漏れると、周囲の臓器が強い消化液で溶けることもあるという。

県立中央病院は2019年から腹腔鏡による切除術を導

入。新たに取り入れたロボットアームを使うダヴィンチは、腹腔鏡に比べ、手ぶれがなく、臓器を縫い合わせる精度も高まる。10月下旬に1例目を実施した60代女性の経過は順調という。

同病院では、開腹手術と腹腔鏡手術による膵頭十二指腸切除術を年間計30〜40件実施しており、今後ダヴィンチを使った手術は、年間10件程度を見込む。

外科の天谷公司部長は「ダヴィンチの利点を生かすことで高難度の手術を安定して行えるようになった」と話している。

# 最新技術 患者の負担減